

VMware ESXi 6.0 シャットダウン方法・導入手順

対象LANインタフェースカード:PRLANIF003～006

2016年8月

山洋電気株式会社

ESXi 6.0 ホスの停止方法について

VMware ESXi(ホス)には、ソフトウェアをインストールできないためUPSにLAN Interface Card ※¹ (以降、LANカードとします)を搭載し、ネットワーク経由でシャットダウン制御します。

※¹: 本資料の対象製品は、PRLANIF003～006です。

以下の方法で、ホスの停止制御を行うことができます。

- ① LANカードからESXi(ホス)※²へSSHログインし、停止制御を行う。
- ② vMA(VMware vSphere Management Assistant)※³を別途導入し、vMA経由で停止制御を行う。

※²: Update2使用時は、次頁「Update2使用時の注意」を確認してください。

※³: 本資料では、vMA 6.0.0.0 または vMA 6.0.0.1 を使用しています。

VMWare ESXi 6.0 Update2 使用時の注意

ESXi 6.0 Update2(ホスト)へSSHログインし、停止制御を行う場合、対象製品のプログラム番号は、以下になります。

・PRLANIF003～006 ROMプログラム:P0010187J以降が対象

上記対象製品のROMプログラム:P0010187A～Hを使用されている場合LANカードからVMware ESXi 6.0 Update2のホストへ直接SSHログインはできません。

ROMプログラム:P0010187J以降へアップデートしてお使いください。

vMA(VMWare vSphere Management Assistant)経由で停止制御を行う場合は、ROMプログラム:P0010187A～Hを使用されている場合でも対応できます。

ESXi 6.0(ホスト) のシャットダウン方法 (SSHログインによる)

ESXi(ホスト)のSSH接続を有効にし、
UPS(LANカード)から接続できるようにします。

※設定方法は、本資料の「ESXi(ホスト)のSSH接続の有効化」、
「ESXi(ホスト)のSSHサーバ設定 (sshd_configの変更)」を参照してください。



ESXi(ホスト)は、UPSからSSH接続して、シャットダウンを行います。
ゲストOSは、以下のいずれかの方法でシャットダウンを行います。
構成1: 各ゲストOSにUPS管理ソフトをインストールして、シャットダウン。
構成2: ESXi(ホスト)からゲストOS毎にシャットダウンコマンドを実行。

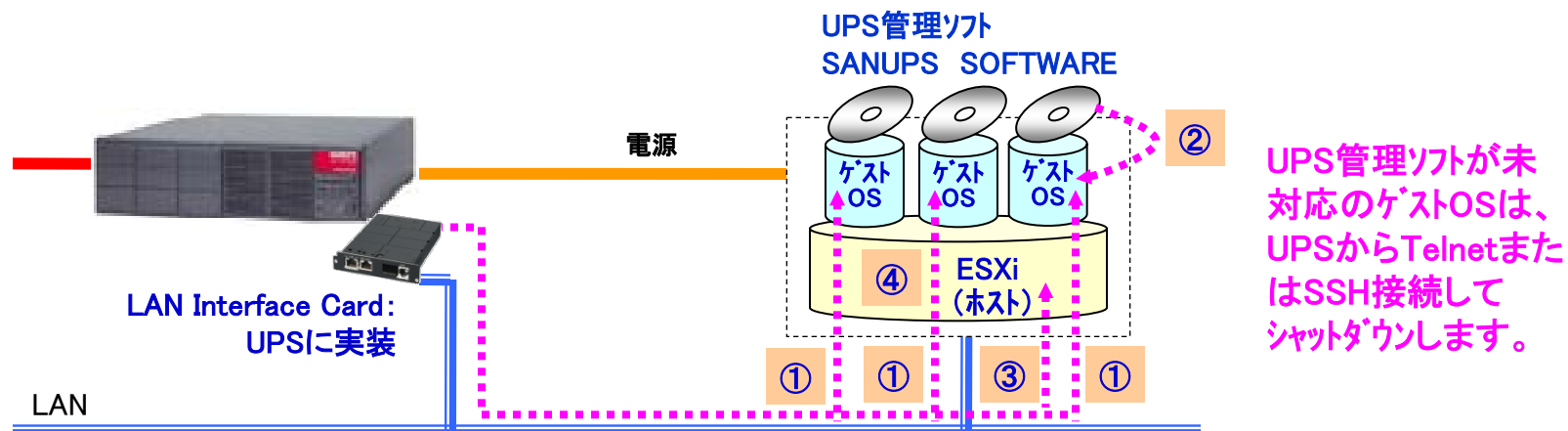
※復電時は、ESXi(ホスト)へSSH接続して、メンテナンスモードを解除後、ゲストOSを起動します。

(注意)

・各ゲストOS には、VMware Tools をインストールしてください。

シャットダウン方法(構成1:ゲストOSにUPS管理ソフトインストール)

ゲストOSは、UPS管理ソフトをインストールしてシャットダウンする。
ESXi(ホスト)は、SSH接続して、ホストのシャットダウンコマンドを実行する。

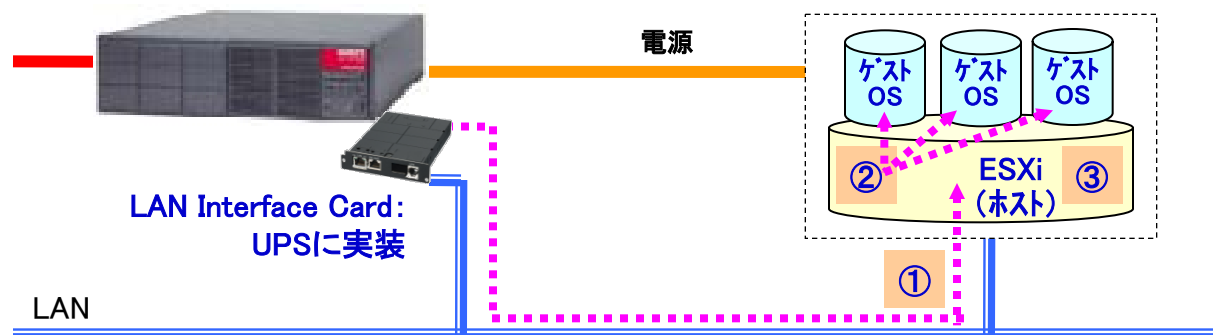


シャットダウン方法

- ①UPS(LANカード)からゲストOSのUPS管理ソフトへシャットダウン指示を通知する。
- ②ゲストOSはUPS管理ソフトによりシャットダウンする。
- ③UPS(LANカード)からESXi(ホスト)へSSH接続する。
- ④ゲストOSのシャットダウン完了時間経過後、ホストのシャットダウンコマンドを実行する。

シャットダウン方法(構成2:ホストからゲストOSのシャットダウンコマンド実行)

ESXi(ホスト)へSSH接続して、ゲストOS、ホストのシャットダウンコマンドを実行する。



シャットダウン方法

- ①UPS(LANカード)からESXi(ホスト)へSSH接続する。
- ②ESXi(ホスト)からゲストOS毎にシャットダウンコマンドを実行する。
- ③ゲストOSのシャットダウン完了時間経過後、ホストのシャットダウンコマンドを実行する。

ESXi(ホスト)のSSH接続の有効化(vSphere Client使用時)

「vSphere Client」を使用して、ESXi(ホスト)のSSH接続を有効にします。

① 「構成」タブの「セキュリティプロファイル」を選択し、サービスの「プロパティ」をクリックします。

② 「SSH」を選択後、「オプション」をクリックします。

③ 「ホストに連動して開始および停止」を選択し、「開始」をクリック後、「OK」をクリックします。

SSH (TSM-SSH) オプション

ステータス
停止

起動ポリシー

- いずれかのポートが開くと自動的に開始し、すべてのポートが開くと停止
- ホストに連動して開始および停止
- 手動で開始および停止

サードコマンド

開始 停止 再起動

OK キャンセル ヘルプ (H)

「Alt+F1」を押してコンソールからログインする場合は、サービスの「プロパティ」⇒「リモートアクセス」の「ESXi シェル」も「SSH」と同様に設定してください。

ESXi(ホスト)のSSH接続の有効化(コンソール使用時)

ESXiのコンソールから、ESXi(ホスト)のSSH接続を有効にします。

① F2キーを押します。

VMware ESXi 6.0.0 (VMKernel Release Build 3620759)
VMware, Inc. VMware Virtual Platform
2 x Intel(R) Core(TM) i5-3470 CPU @ 3.20GHz
4 GiB Memory

Download tools to manage
http://rhe172-vm-57/
http://172.30.1.57/ (DHCP)
http://1fe80::20c:29ff:

System Customization
Configure Password
Configure Lockdown Mode
Configure Management Network
Restart Management Network
Test Management Network
Network Restore Options
Configure Keyboard
Troubleshooting Options
View System Logs
View Support Information
Reset System Configuration

Troubleshooting Options
To view various troubleshooting mode options like Enable ESXi Shell, Enable SSH and Restart Agents.

Troubleshooting Mode Options
Disable ESXi Shell
Disable SSH
Modify ESXi Shell and SSH Timeout
Modify DCUI idle timeout
Restart Management Agents

ESXi Shell
ESXi Shell is Enabled
Change current state of the ESXi Shell

② 「Troubleshooting Options」を選択します。

③ 「ESXi Shell」、および「SSH」を有効にします。
(この図では、「ESXi Shell」、
「SSH」は有効に変更済み)

<F2> Customize System/View Logs

<Enter>

VMware ESXi 6.0.0 (VMKernel Release Build 3620759)

<Up/Down> Select

<Enter> Change

<Esc> Exit

VMware ESXi 6.0.0 (VMKernel Release Build 3620759)

ESXi(ホスト)のSSHサーバ設定(sshd_configの変更)

UPS(LANカード)からSSH接続できるように、ESXi(ホスト)のSSHサーバ設定(/etc/ssh/sshd_config)を変更します。

- ① ESXiのコンソールから、「Alt+F1」を押してログイン画面に移動
- ② rootユーザでESXiシェルにログインします。以下のメッセージが表示されます。

```
The ESXi Shell can be disabled by an administrative user. See the
vSphere Security documentation for more information.
[root@localhost:~]
```

- ③ /etc/ssh/sshd_config ファイルの変更
viコマンドでファイルを編集し、以下の3箇所を変更します。

```
PasswordAuthentication yes          ← no を yes に変更する(パスワード認証を有効にする)
#Banner /etc/issue                  ← # コメントにする(バナーを無効にする)
#ClientAliveInterval 200           ← # コメントにする(クライアント生存チェックを無効にする)
```

ESXi 6 Update2の場合は、以下の箇所も合わせて変更します。

```
KexAlgorithms diffie-hellman-group1-sha1 ← この項目を追加する
```

SSH接続時、LANカード側でスクリプト送信失敗 詳細:ERROR-89001、89002、89003 のエラーが発生する場合は、最終行に以下の行を追加してください。

```
LoginGraceTime 1200                ← ログイン猶予時間を長くする
```

- ④ 「Alt+F2」を押してメインメニューへ戻ります。

UPS(LANカード)に装置登録

UPS(LANカード)にESXi(ホスト)をSSH接続装置として、登録します。



「登録」ボタンをクリックして、装置登録を行います。



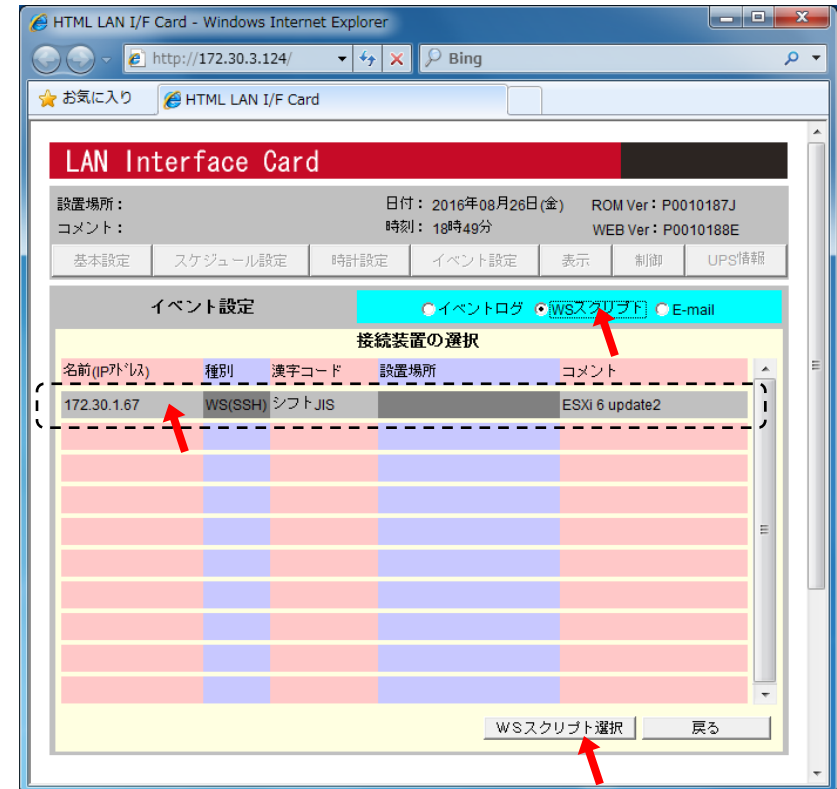
装置タイプ:「WS(SSH接続)」を選択して、ESXi(ホスト)のIPアドレスを設定し、登録します。

UPS(LANカード)にWSスクリプト設定(1/3)

ESXi(ホスト)のWSスクリプトを設定します。



「イベント設定」ボタンをクリックします。



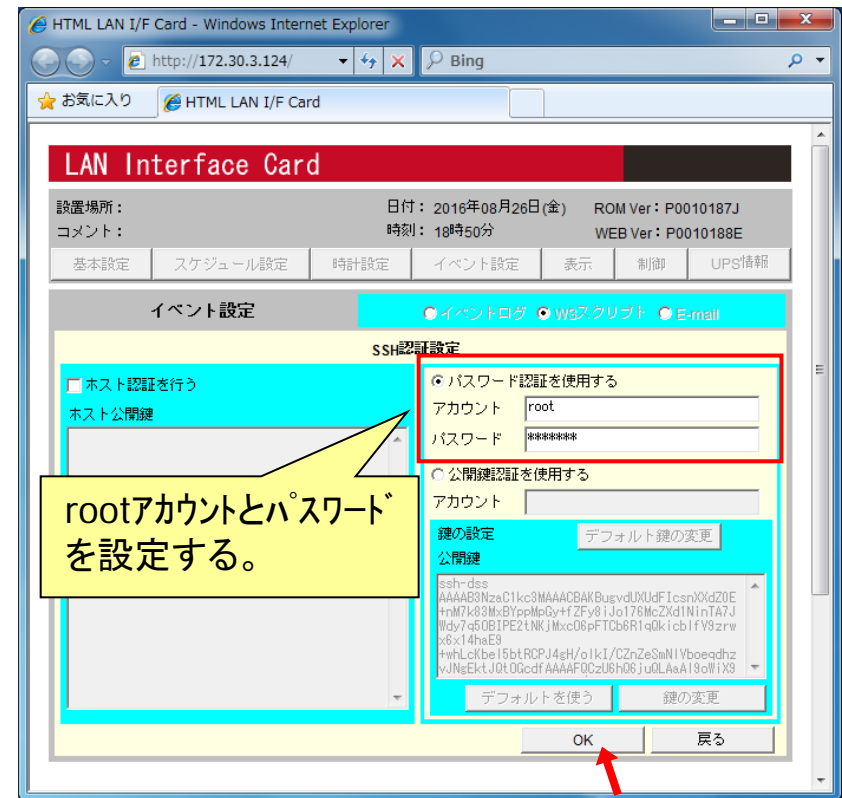
「WSスクリプト」のチェックボタンをクリック後、一覧からESXi(ホスト)を選択し、「WSスクリプト選択」ボタンをクリックします。

UPS (LANカード) にWSスクリプト設定 (2/3)

ESXi(ホスト)へSSH接続するときのアカウント、パスワードを設定します。



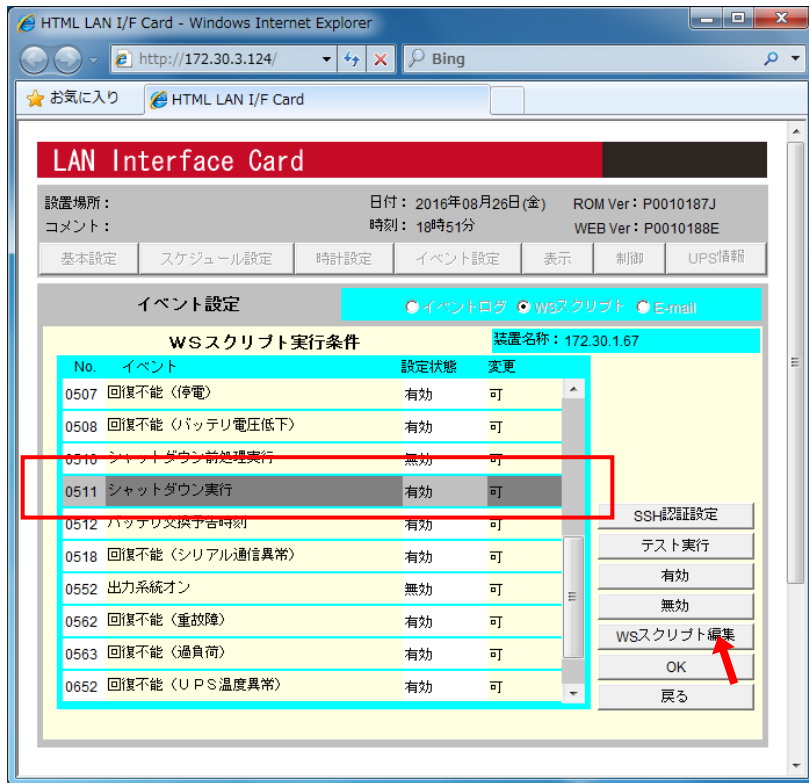
「SSH認証設定」ボタンをクリックします。



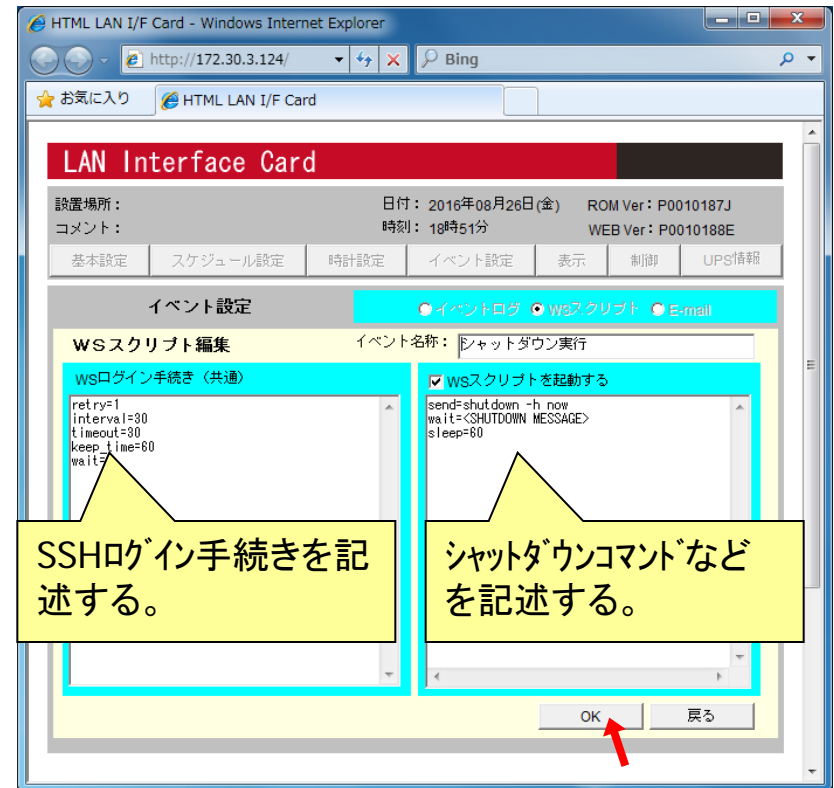
ESXi(ホスト)へSSH接続するときのアカウント(root)とパスワードを入力します。
(パスワードは * 表示になります)

UPS(LANカード)にWSスクリプト設定(3/3)

ESXi(ホスト)のシャットダウンコマンドなどを設定します。



「シャットダウン実行」イベントを選択して、「WSスクリプト編集」ボタンをクリックします。



ESXi(ホスト)へSSH接続後のログインプロンプト待ちおよび、シャットダウンコマンドなどを設定します。

(次ページのスクリプト設定の説明を参照)

構成1 (ゲストOSにUPS管理ソフトインストール) のスクリプト設定

LANカードの「シャットダウン実行」イベントに、ESXi(ホスト)をシャットダウンするスクリプトを設定。

ログインスクリプト例

<デフォルト値>

```
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=#
```

<設定値>

```
cr_only=yes
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=]
```

改行コードをCRに変更

「シャットダウン実行」スクリプト例

<デフォルト値>

```
send=shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

<設定値>

```
sleep=120
send=esxcli system maintenanceMode set -e true
wait=]
send=esxcli system shutdown poweroff -r UPS
wait=]
```

UPS管理ソフトによりゲストOSのシャットダウンが完了するまでの待機時間を設定する(例:120秒)

ESXi (ホスト)をシャットダウン

ESXi (ホスト)をメンテナンスモードへ移行

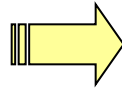
構成2(ホストからゲストOSのシャットダウンコマンド実行)のスクリプト設定

LANカードの「シャットダウン実行」イベントに、ゲストOSおよびESXi(ホスト)をシャットダウンするスクリプトを設定。

ログインスクリプト例

<デフォルト値>

```
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=#
```



<設定値>

```
cr_only=yes
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=]
```

改行コードをCRに変更

構成2(ホストからゲストOSのシャットダウンコマンド実行)のスクリプト設定

シャットダウン実行スクリプト例

<デフォルト値>

```
send=shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

ゲストOSを順番にシャットダウン
(例: Windows Server 2008 R2 EE、
RHEL 4.0の順番でシャットダウン)

<設定値>

```
send=vim-cmd vmsvc/power.shutdown `vim-cmd
vmsvc/getallvms| awk '/Windows Server 2008 R2 EE/
{print $1;}`
wait=]
send=vim-cmd vmsvc/power.shutdown `vim-cmd
vmsvc/getallvms| awk '/RHEL 4.0/ {print $1;}`
wait=]
send=esxcli system maintenanceMode set -e true
wait=]
send=esxcli system shutdown poweroff -r UPS
wait=]
```

1行で記述

1行で記述

ESXi (ホスト)をシャットダウン

ESXi (ホスト)をメンテナンスモードへ移行

ゲストOS名を指定する

ゲストOSシャットダウン用コマンド例

```
vim-cmd vmsvc/power.shutdown `vim-cmd vmsvc/getallvms| awk '/RHEL 4.0/ {print $1;}`
```


構成2 ゲストOSシャットダウン用スクリプトファイル実行例

ゲストOSが複数ある場合は、ゲストOSシャットダウン用スクリプトファイルを作成し、データストア(/vmfs/volumes/datastore1)など保存可能なディレクトリに格納して、実行することもできます。

シャットダウン実行スクリプト例

<デフォルト値>

```
send=shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

ゲストOSのシャットダウン用スクリプトファイル実行後、ゲストOSがシャットダウン完了するまでsleep待ち

<設定値>

```
send=/vmfs/volumes/datastore1/upsctrl_stop.sh
wait=]
sleep=120
send=esxcli system maintenanceMode set -e true
wait=]
send=esxcli system shutdown poweroff -r UPS
wait=]
```

ゲストOSシャットダウン用スクリプトファイル

ESXi (ホスト)をシャットダウン

ESXi (ホスト)をメンテナンスモードへ移行

上記設定ではwait行のタイムアウト値は、ログインスクリプトに設定している30秒です。スクリプトファイルの実行に時間がかかり、プロンプト(#)を受け取る前にタイムアウトする場合は、スクリプトファイル実行に必要な時間をwait行の前にタイムアウト値として追加してください。

例) wait行の前に以下の行を追加すると、以降wait行のタイムアウトが2分になります。

```
tiimeout=120
```

構成2 ゲストOSシャットダウン用スクリプトファイル例

ESXi(ホスト)に登録されているゲストOS情報を取得後、
ゲストOSが起動中(ON状態)の場合にシャットダウンするスクリプトファイル例です。

```
#!/bin/sh
for VMID in $(vim-cmd vmsvc/getallvms |awk '/^[0-9]/ {print $1}');
do
    isalive=$(vim-cmd vmsvc/power.getstate ${VMID})
    val=$(echo $isalive | sed -e "s/Retrieved runtime info Powered //" )
    if [ $val = "on" ]; then
        $(vim-cmd vmsvc/power.shutdown ${VMID})
    fi
done
```

<スクリプト中のコマンド説明>

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| ▪ vim-cmd vmsvc/getallvms | ゲストOSの一覧情報取得 |
| ▪ vim-cmd vmsvc/power.getstate | ゲストOSが起動中か状態取得 |
| ▪ vim-cmd vmsvc/power.shutdown | ゲストOSのシャットダウン |

ゲストOSにUPS管理ソフトをインストールする

ゲストOSにSANUPS SOFTWAREをインストールし、UPS(LANカード)とネットワーク接続することで、ゲストOSをシャットダウンできます。

<主なメリット>

- ・複数ゲストOS使用時、各OS毎にシャットダウン開始までの遅延時間を設定可能
- ・各OS上でシャットダウン動作前にスクリプト、コマンド等を実行可能

ESXiでサポートされているゲストOS(インストール可能なものを抜粋しています)

- ✓ SANUPS SOFTWARE for Windows
 - Windows 2000, XP(x86/x64), Vista(x86/x64), 7(x86/x64), 8/8.1(x86/x64), 10(x86/x64)
 - Windows Server 2003/2003 R2(x86/x64)
 - Windows Server 2008/2008 R2(x86/x64)
 - Windows Server 2012/2012 R2(x64)
- ✓ SANUPS SOFTWARE for Linux
 - Red Hat Enterprise Linux v.3/v.4/v.5/v.6(x86/x64)
 - SUSE Linux Enterprise Server 9/10/11(x86/x64)
 - MIRACLE LINUX Asianux Server 3(x86/x64)
- ✓ SANUPS SOFTWARE for UNIX
 - Solaris 10/11(x86/x64)

復電時の自動起動のSCRIPT設定

出力ONまたは出力オン イベントにSCRIPTを設定します。
 (出力ONは単系統出力UPS、出力オンは複数系統出力UPS用のイベントです)

出力ON、出力オン SCRIPT例

<デフォルト値>

```
send=shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

<設定値>

```
delay=120
send=vim-cmd hostsvc/maintenance_mode_exit
wait=]
[send=vim-cmd vmsvc/power.on `vim-cmd
vmsvc/getallvms| awk '/Windows Server 2008 R2 EE/
{print $1;}`
wait=]
[send=vim-cmd vmsvc/power.on `vim-cmd
vmsvc/getallvms| awk '/RHEL 4.0/ {print $1;}`
wait=]
```

UPSが出力ONしてからESXi(ホスト)が起動するまでの時間を指定する。この時間経過後にSSH接続する。

ESXi(ホスト)のメンテナンスモードを解除

ゲストOSを順番に起動する
 (例: Windows Server 2008 R2 EE、
 RHEL 4.0の順番で起動)

1行で
記述

1行で
記述

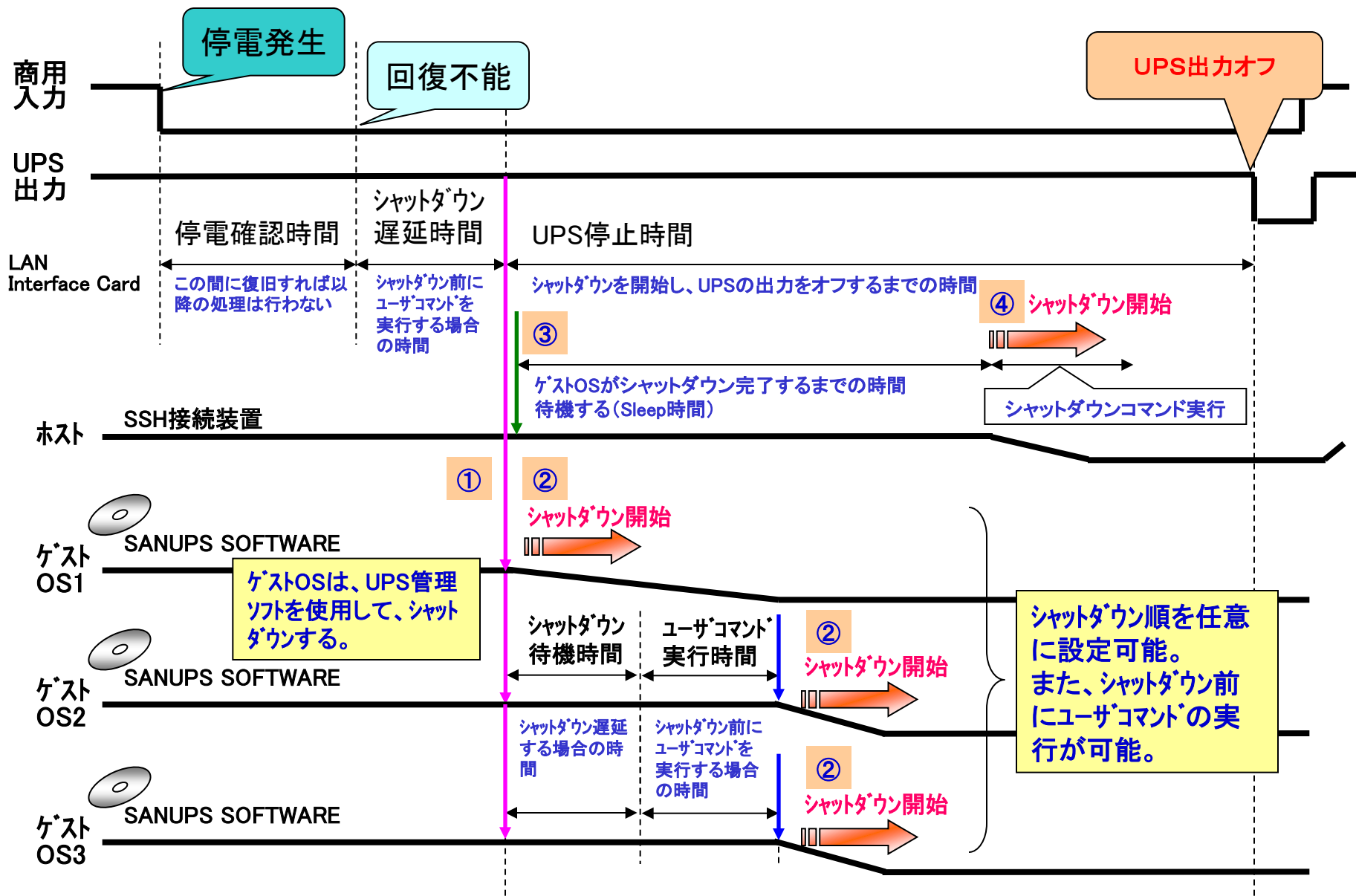
ゲストOS起動用コマンド例

```
vim-cmd vmsvc/power.on `vim-cmd vmsvc/getallvms| awk '/RHEL 4.0/ {print $1;}`
```

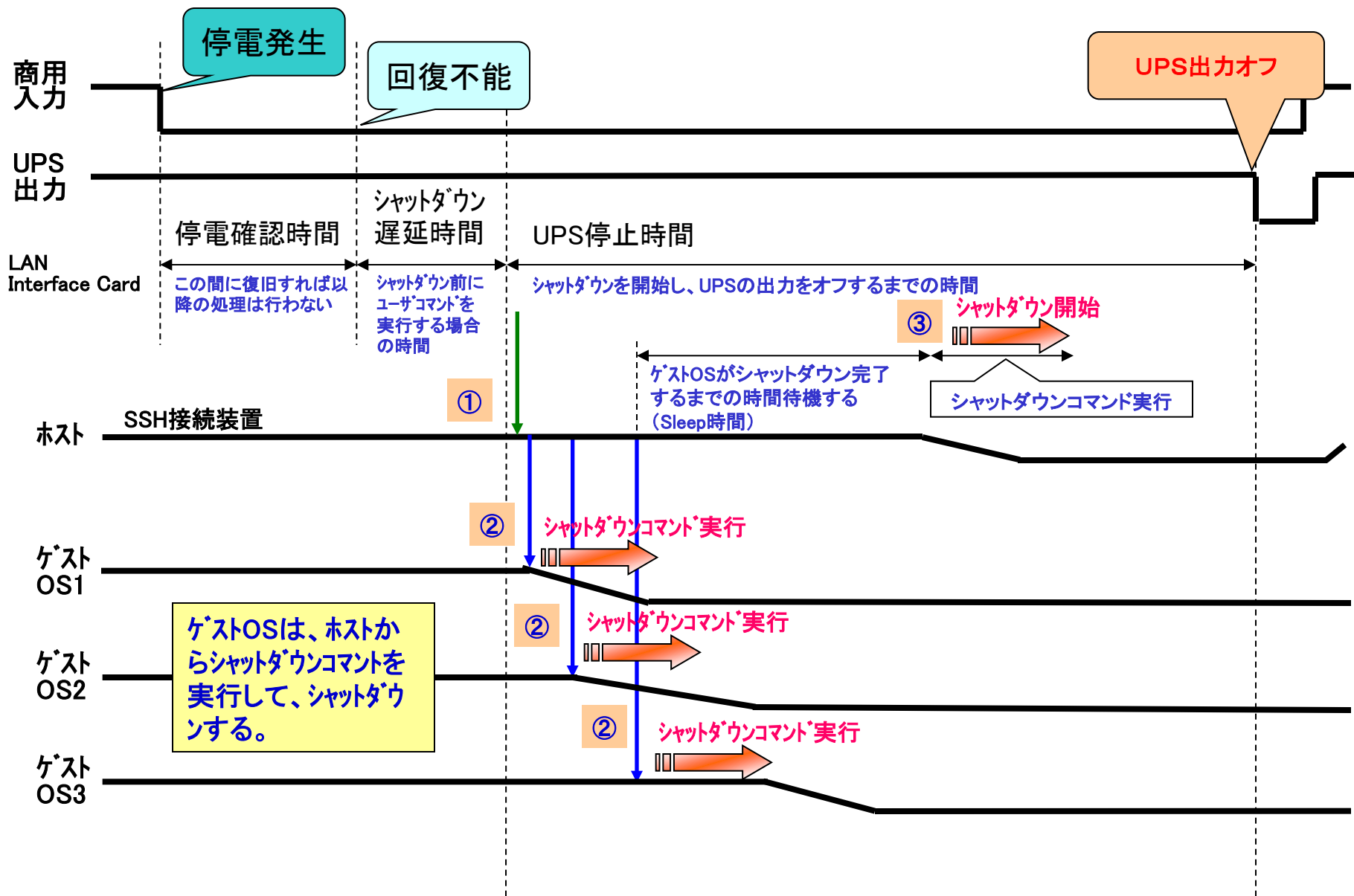
※ゲストOS起動用SCRIPTファイルを作成する場合は、
 ゲストOSシャットダウン用SCRIPTファイルを参考にして作成してください。

ゲストOS名を指定する

シャットダウンシーケンス(構成1:ゲストOSにUPS管理ソフトインストール)



シャットダウンシーケンス(構成2:ホストからゲストOSのシャットダウンコマンド実行)



復電時の自動起動シーケンス



vMAを経由したシャットダウン方法

※構成1、または構成2をご使用される場合は、以降の説明は不要です。

<事前準備>

ESXiにVMware vSphere Management Assistant (以下vMA)を導入します。
(本書では、vMA 6.0.0.0 および vMA 6.0.0.1を使用した場合について説明しています。)

ESXi 6.0 のvMAを経由したシャットダウン方法

vMAを起動します。

vMAのSSHサーバ設定ファイル(/etc/ssh/sshd_config)を変更し、LANカードからvMAに対してSSH接続可能にして、シャットダウン行うように設定します。



LANカードからvMAにSSH接続し、以下の方法でシャットダウンを行います。

構成3: vMAからホストをシャットダウンするコマンドを実行する。

ゲストOSは、ESXiの連動シャットダウン機能

(仮想マシン起動/シャットダウン)を使用して、シャットダウンする。

構成4: vMAに停止スクリプトを導入して、ゲストOS、ホストをシャットダウンする。

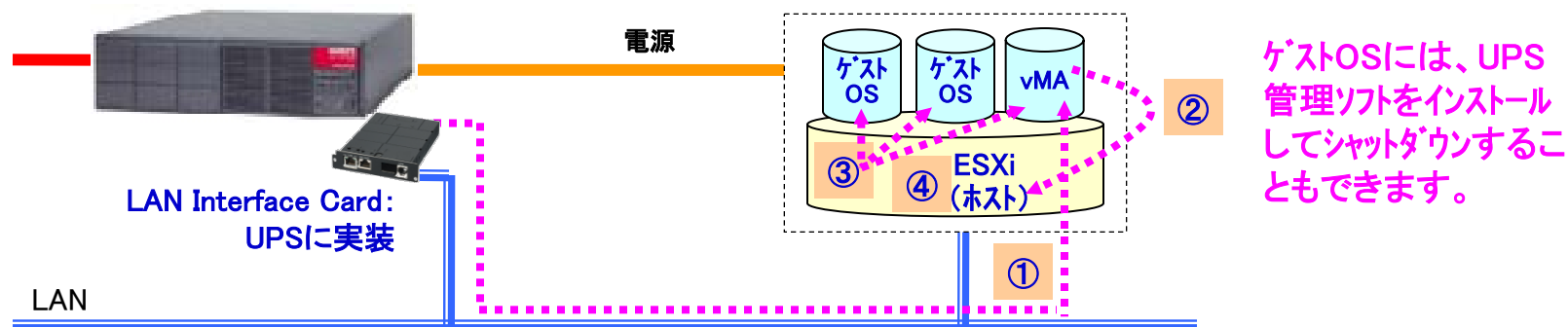
※復電時は、ESXiの連動シャットダウン機能(仮想マシン起動/シャットダウン)を使用して起動する。

(vMAを使用する場合の注意事項)

- ・vMAからホストをシャットダウンする場合、vMA自身はESXiの連動シャットダウン機能(仮想マシン起動/シャットダウン)を使用してシャットダウンするため、VMware HA環境では使用できません。
- ・VMware ESXi をシャットダウンするには、VMware ESXi の有償ライセンスが必要です。
- ・各ゲストOS には、VMware Tools をインストールしてください。

シャットダウン方法(構成3: vMAからホストのシャットダウンコマンド実行)

vMAへSSH接続して、ホストをシャットダウンするコマンドを実行する。
ゲストOS、vMAは、ESXiの連動シャットダウン機能を使用して、
ホストと連動してシャットダウンする。

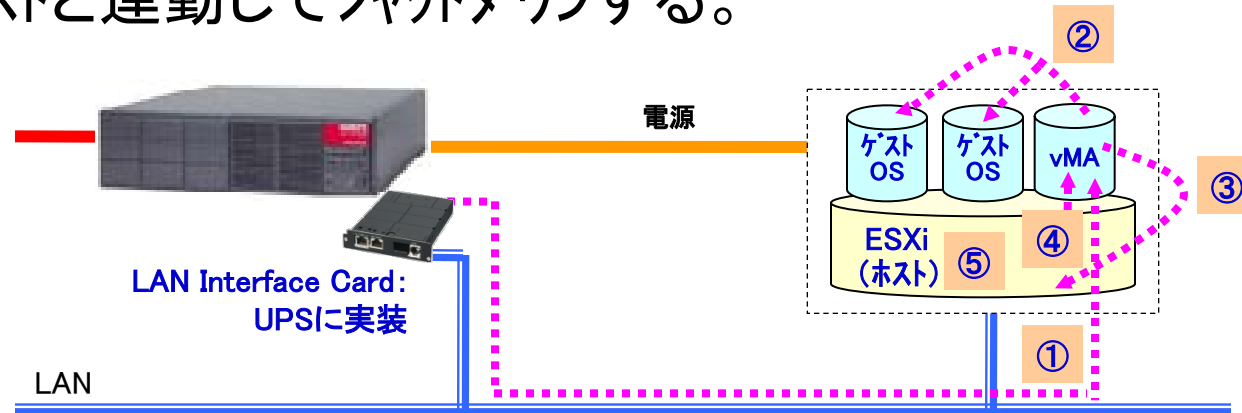


シャットダウン方法

- ①UPS(LANカード)からvMAへSSH接続する。
- ②vMAからホストのシャットダウンコマンドを実行する。
- ③ゲストOS、vMAは、ESXiの連動シャットダウン機能を使用して、ホストのシャットダウン前に自動的にシャットダウンを開始する。
- ④ゲストOS、vMAのシャットダウン完了後、ホストのシャットダウンを開始する。

シャットダウン方法(構成4: vMAからスクリプト実行)

vMAへSSH接続して、ゲストOS、ホストをシャットダウンするスクリプトを実行する。vMAは、ESXiの連動シャットダウン機能を使用して、ホストと連動してシャットダウンする。



シャットダウン方法

- ①UPS(LANカード)からvMAへSSH接続する。
- ②vMAからスクリプトを実行し、ゲストOSをシャットダウンする。
- ③vMAのスクリプトにて、ゲストOSシャットダウン完了後、ホストをシャットダウンする。
- ④vMAは、ESXiの連動シャットダウン機能を使用して、ホストのシャットダウン前に自動的にシャットダウンを開始する。
- ⑤vMAのシャットダウン完了後、ホストのシャットダウンを開始する。

vMAのSSHサーバ設定 (sshd_configの変更)

UPS(LANインタフェースカード)からSSH接続できるように、vMAのSSHサーバ設定 (/etc/ssh/sshd_config) を変更します。

① vMAへログインします。

② /etc/ssh/sshd_config ファイルの変更

sudo viでファイルを編集し、以下の2箇所を変更します。

```
#Banner /etc/ssh/banner          ← # コメントにする(バナーを無効にする)
Ciphers aes256-ctr,aes128-ctr,aes128-cbc ← Ciphers行に“,aes128-cbc”を追加 ※1
```

※1: Ciphers(SSH2暗号方式)に、LANカードが対応している暗号方式を追加する。

vMA6.0.0.1 を導入している場合は、以下の箇所も合わせて追加します。

```
KexAlgorithms ecdh-sha2-nistp256,ecdh-sha2-nistp384,ecdh-sha2-nistp521,  
diffie-hellman-group-exchange-sha256,diffie-hellman-group1-sha1 ※2
```

※2: デフォルト値から“diffie-hellman-group-exchange-sha1”を削除する。

KexAlgorithms
行を追加
(1行で記述)

③ sshdを再起動します。

```
sudo service sshd restart
```

<その他の設定>

・vMAにESXiホストを登録する必要があります。
(sudo vifp addserver <ホストのIPアドレス>)

UPS(LANカード)に装置登録

UPS(LAN Interface Card)にvMAをSSH接続装置として、登録します。



「登録」ボタンをクリックして、装置登録を行います。



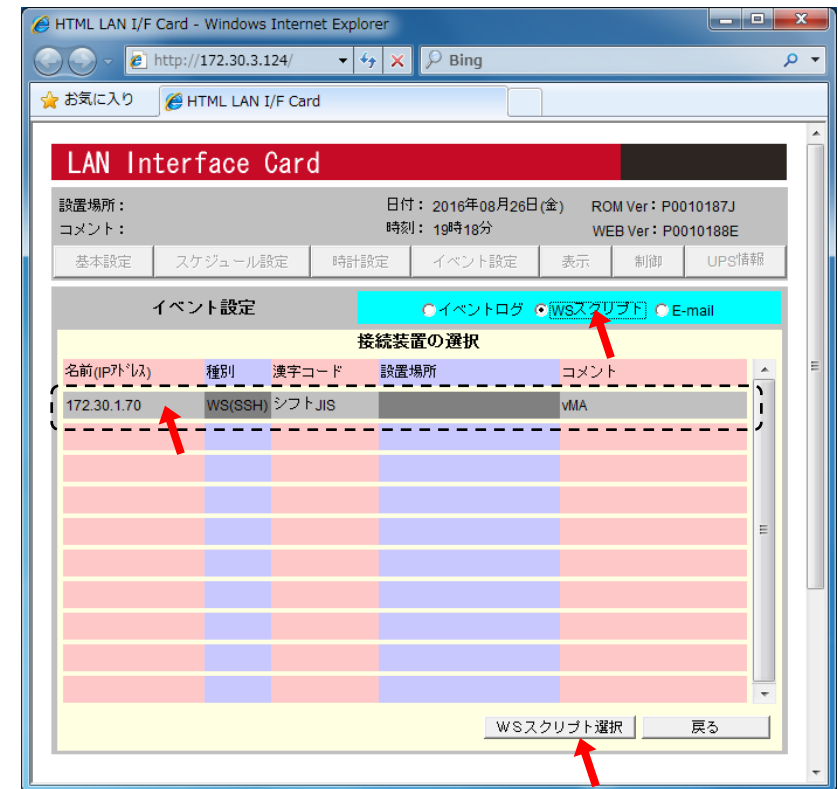
装置タイプ:「WS(SSH接続)」を選択して、vMAのIPアドレスを設定し、登録します。

UPS(LANカード)にWSスクリプト設定(1/3)

ESXi(ホスト)のWSスクリプトを設定します。



「イベント設定」ボタンをクリックします。



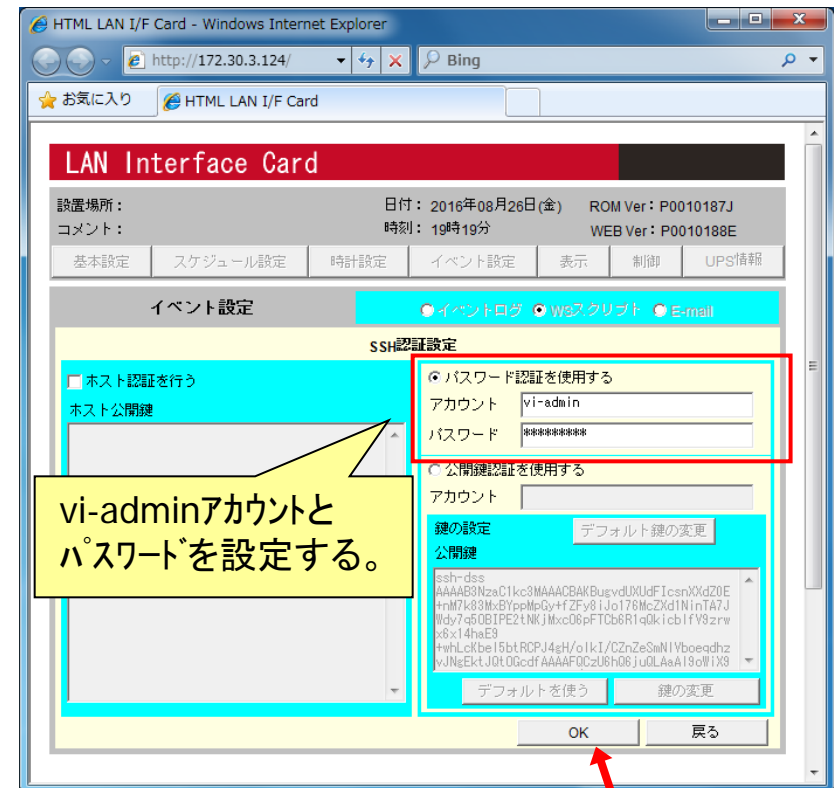
「WSスクリプト」のチェックボタンをクリック後、一覧からvMAを選択し、「WSスクリプト選択」ボタンをクリックします。

UPS (LANカード) にWSスクリプト設定 (2/3)

ESXi(ホスト)へSSH接続するときのアカウント、パスワードを設定します。



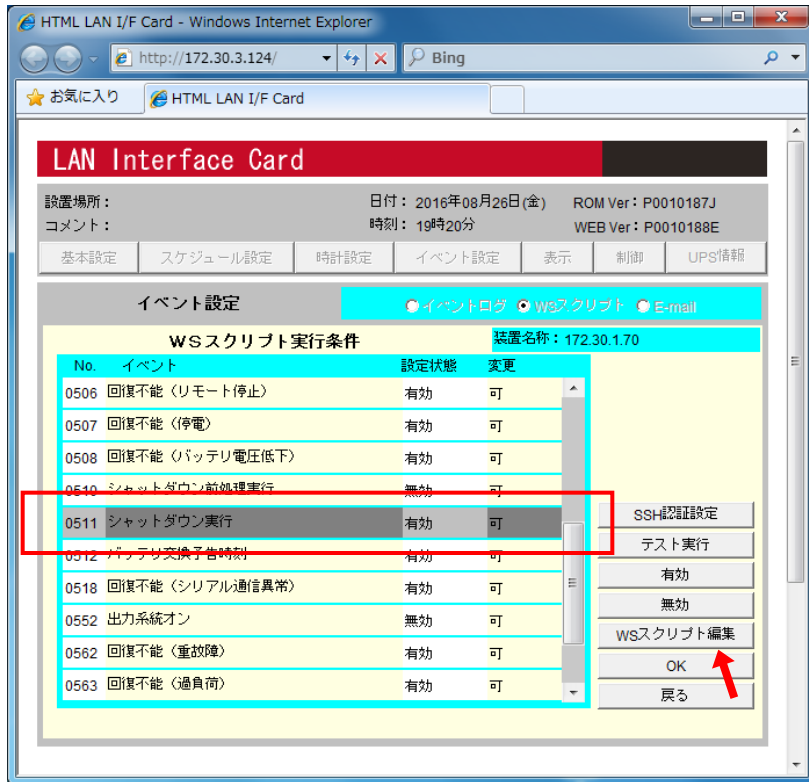
「SSH認証設定」ボタンをクリックします。



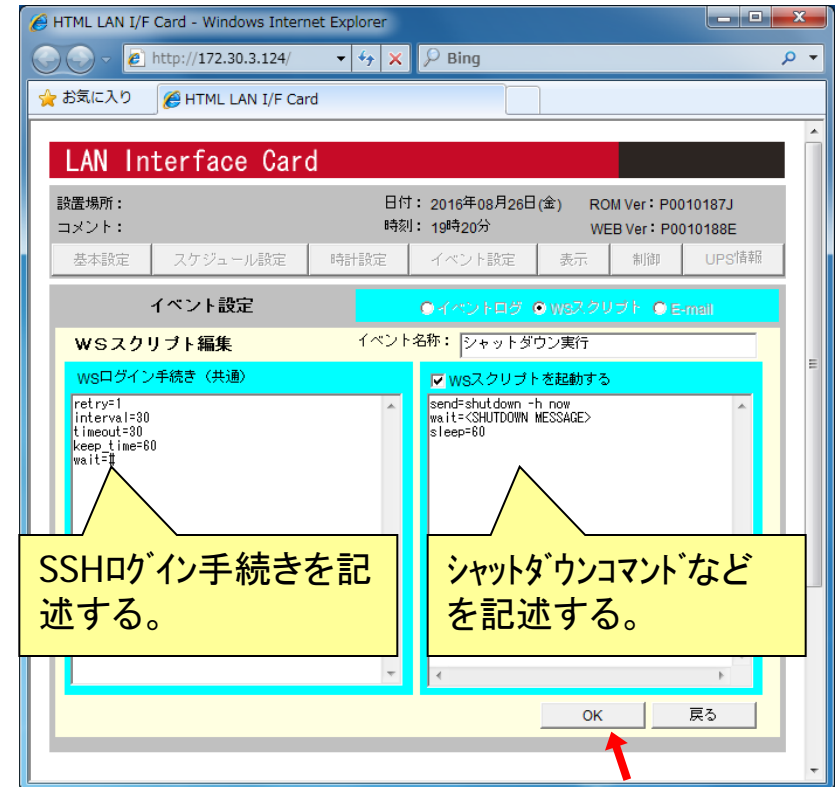
vMAへSSH接続するときのアカウント (vi-admin) とパスワードを入力します。
(パスワードは * 表示になります)

UPS(LANカード)にWSスクリプト設定(3/3)

ESXi(ホスト)のシャットダウンコマンドなどを設定します。



「シャットダウン実行」イベントを選択して、「WSスクリプト編集」ボタンをクリックします。



vMAへSSH接続後のログインプロンプト待ちおよび、シャットダウンコマンドなどを設定します。

(次ページのスクリプト設定の説明を参照)

構成3 (vMAからホスのシャットダウンコマンド実行) のスクリプト設定

「シャットダウン実行」イベントに、vMAからホスをシャットダウンするコマンドを設定します。
(ゲストOSの停止は、連動シャットダウン機能による)

ログインスクリプト例

<デフォルト値>

```
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=#
```

<設定値>

```
cr_only=yes
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=>
```

改行コードをCRIに変更

ログインプロンプトを変更

シャットダウン実行スクリプト例

<デフォルト値>

```
send=shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

<設定値>

```
send=vicfg-hostops --server 172.30.3.14 --username
root --password sanyodenki --operation shutdown --
force
sleep=10
```

ESXi (ホス) のシャットダウン

1行で
記述

ホスシャットダウン用コマンド

```
send= vicfg-hostops --server ホスIPアドレス --username ユーザ名 --password パスワード
--operation shutdown --force
```

構成4 (vMAからスクリプト実行) のスクリプト設定

「シャットダウン実行」イベントに、vMAからホストをシャットダウンするコマンドを設定します。

ログインスクリプト例

＜デフォルト値＞

```
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=#
```

＜設定値＞

```
cr_only=yes
retry=1
interval=30
timeout=30
keep_time=60
wait=>
```

改行コードをCRに変更

ログインプロンプトを変更

シャットダウン実行スクリプト例

＜デフォルト値＞

```
send=shutdown -h now
wait=<SHUTDOWN MESSAGE>
sleep=60
```

＜設定値＞

```
timeout=180
send=vifptarget -s 172.30.3.14
wait=>
send=/home/vi-admin/upsShutdown.pl
wait=>
sleep=30
send=vicfg-hostops --server 172.30.3.14 --username
root --password sanyodenki --operation shutdown --
force
sleep=10
```

wait行のタイムアウト値を変更(※)

ゲストOSシャットダウン用スクリプト

ゲストOSシャットダウン待ち時間

ESXi (ホスト)のシャットダウン

ESXiホストのターゲット指定

(※:タイムアウト値について)
スクリプトファイルの実行に時間がかかり、プロンプト(>)を受け取る前にタイムアウトする場合は、スクリプトファイル実行に必要な時間をタイムアウト値に設定してください。

1行で
記述

構成4 ゲストOSシャットダウン用スクリプトファイル例

ESXi(ホスト)に登録されているゲストOS情報を取得後、
ゲストOSが起動中(ON状態)の場合にシャットダウンするスクリプトファイル例です。

```
#!/usr/bin/perl -w

$vmwarecmd = "/usr/bin/vmware-cmd";
$vma_name = "vSphere Management Assistant (vMA)";

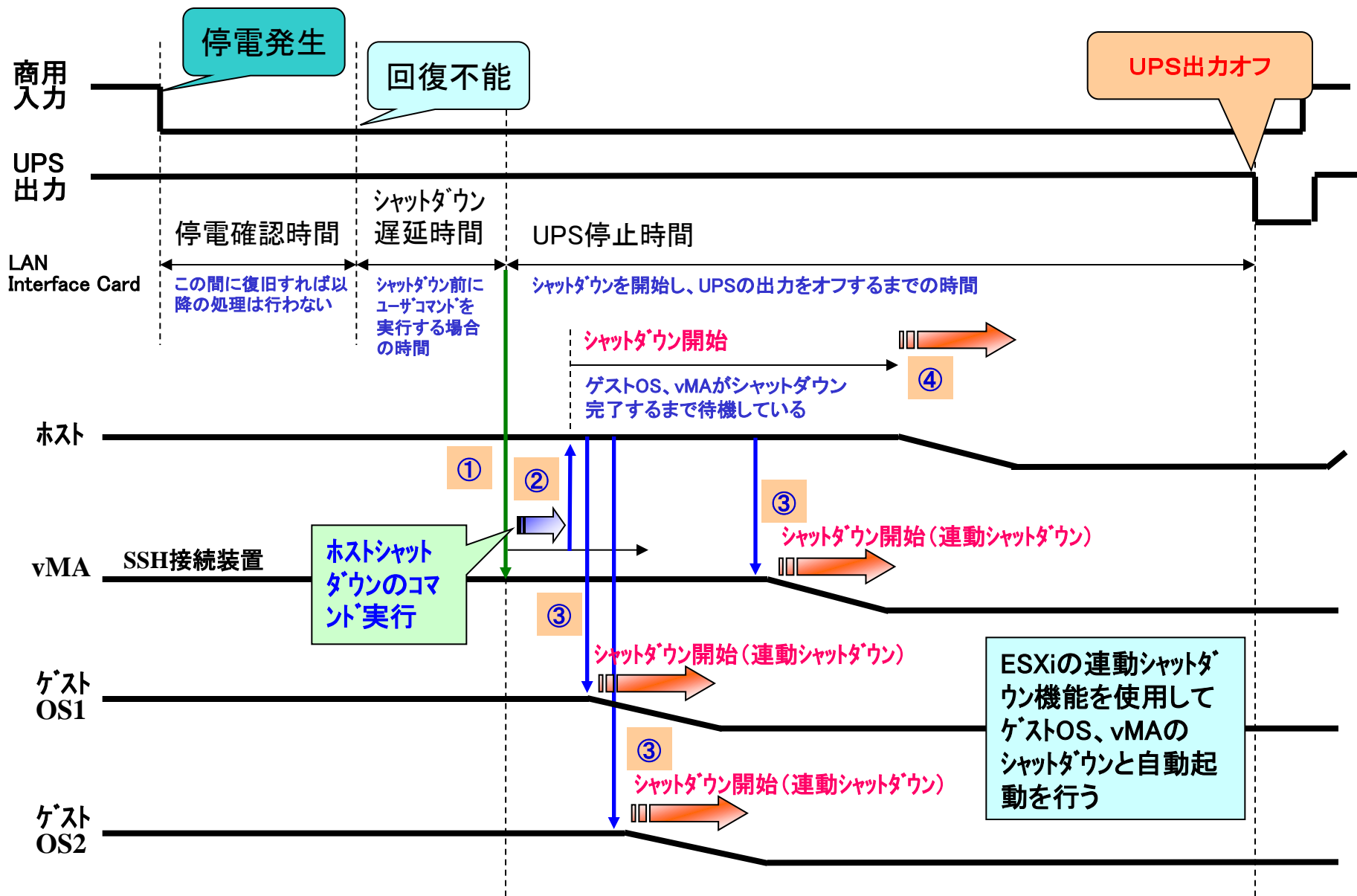
@VMID = ` $vmwarecmd -l | grep -v "$vma_name" `;
chomp(@VMID);
foreach $VM (@VMID) {
    $isalive = ` $vmwarecmd "$VM" getstate `;
    chomp($isalive);
    if ($isalive =~ /= on/) {
        $val = ` $vmwarecmd "$VM" stop soft `;
    }
}
}
```

<スクリプト中のコマンド説明>

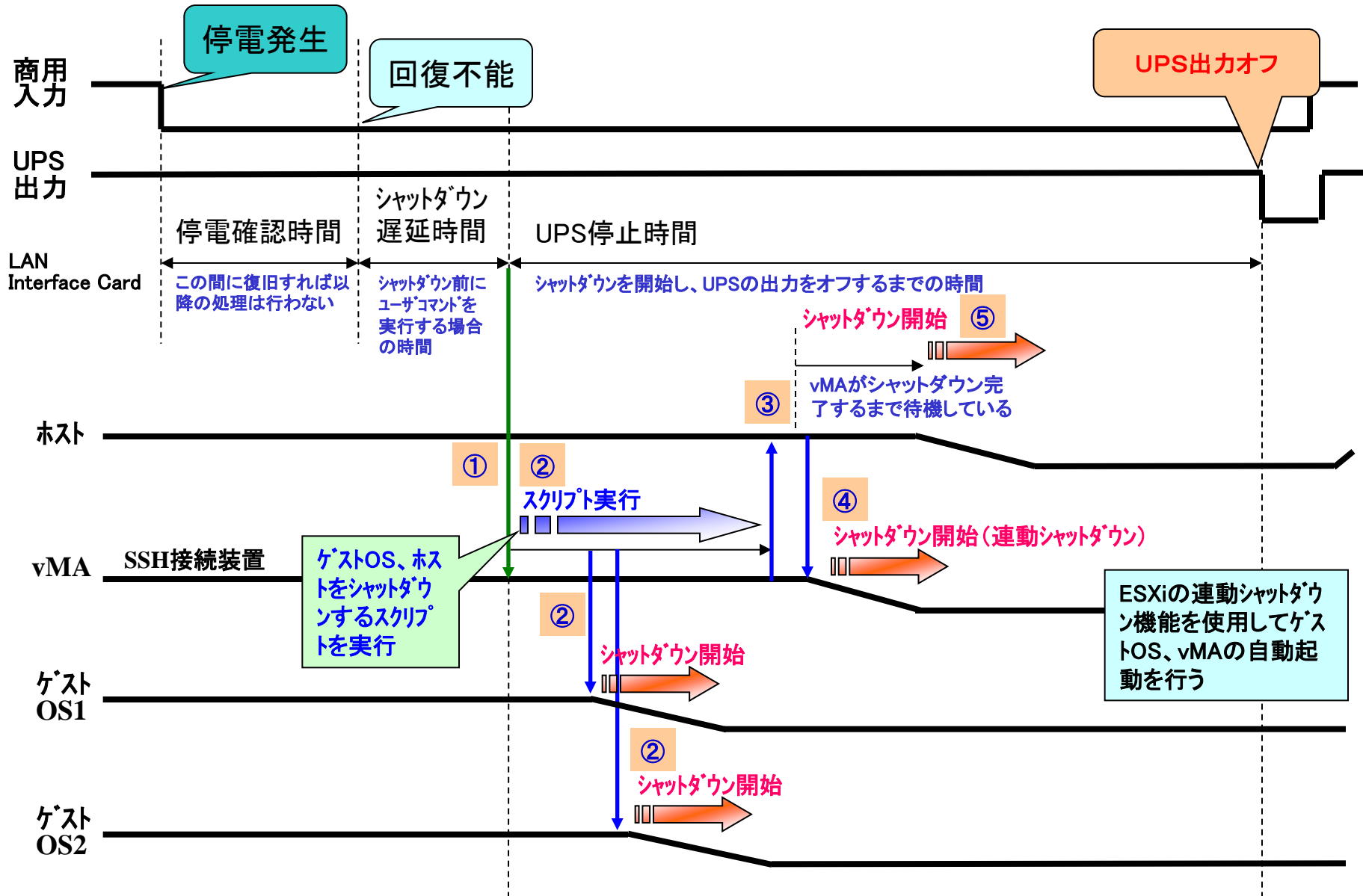
- vmware-cmd -l
- vmware-cmd "\$VM" getstat
- vmware-cmd "\$VM" stop soft

ゲストOSの一覧情報取得
ゲストOSが起動中か状態取得
ゲストOSのシャットダウン

シャットダウンシーケンス(構成3: vMAからホストのシャットダウンコマンド実行)



シャットダウンシーケンス (構成4: vMAからスクリプト実行)



ESXiの連動シャットダウン機能を使用する

「vSphere Client」を使用して、ホストのシャットダウンと連動してゲストOS(またはvMA)をシャットダウンするように設定できます。(デフォルトは無効になっています)

「構成」タブの「仮想マシン起動/シャットダウン」の「プロパティ」をクリックし、連動シャットダウン機能を設定します

・ホストと連動してシャットダウンするゲストOSを「自動起動」へ移動する。
(ゲストOSシャットダウン後にホストがシャットダウン)

「編集」クリック

順序	仮想マシン	起動	起動遅延時間	シャットダウン	シャットダウン遅延
1	RHEL 6.1 x64	有効	120 秒	ゲストのシャットダウン	120 秒
2	RHEL 5.6 x64	有効	120 秒	ゲストのシャットダウン	120 秒
3	Windows Sever 2008 R2 SE	有効	120 秒	ゲストのシャットダウン	120 秒

「構成」タブの「仮想マシン起動/シャットダウン」の「プロパティ」をクリックし、連動シャットダウン機能を設定します

・ホストと連動してシャットダウンするゲストOSを「自動起動」へ移動する。
(ゲストOSシャットダウン後にホストがシャットダウン)

「編集」
クリック

仮想マシンの自動開始設定

起動設定
この仮想マシンの開始後、次の設定に従って別の仮想マシンを続けて開始します。

デフォルトの使用
 指定された設定の使用
起動遅延時間: 120 秒
 VMware Tools が開始したら即座に続行します。

シャットダウンの設定
この仮想マシンの停止後、次の設定に従って別の仮想マシンを続けて停止します。

デフォルトの使用
 指定された設定の使用
シャットダウン遅延時間: 120 秒
シャットダウンアクションの実行: ゲストシャットダウン